

# ニラ冬期伏込み軟化 (黄ニラ) 栽培技術の確立

## 第1報 品種比較

田口 多喜子・田村 晃

(秋田県農業試験場)

Blanching Culture of Chinese Chive in Winter

1. Varietal differences of productivity

Takiko TAGUTI and Akira TAMURA

(Akita Agricultural Experiment Station)

### 1 はじめに

秋田県の冬期農業の一つに、山菜等を主体とした軟化栽培があるが、更なる品目拡大をねらい、食味や歯ざわりの良さから、新たな消費需要が期待できるニラの軟化栽培(黄ニラ)を取り上げた。ここでは、3月伏込みに適した品種選定を目的に、4品種について軟化時の形質・収量性を調査したので、その結果について報告する。

### 2 試験方法

- (1) 試験年次; 1996年
- (2) 試験場所; 秋田農試圃場 ファイロンハウス792㎡内6.6㎡軟化床
- (3) 供試品種; グリーンベルト, 常緑大葉, 大連, たいりょう (供試株はパイプハウス内養成1年株)
- (4) 株伏込期 (軟化開始期); 1997年3月4日
- (5) 軟化床の様式; 図1参照

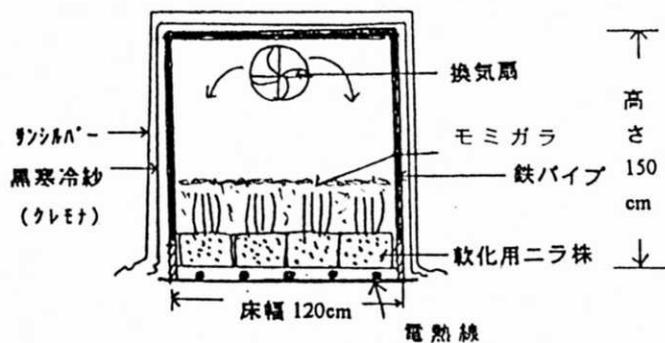


図1 軟化栽培の様式

20cm立方体に掘取った株を、軟化床に4列(伏込密度16株/㎡)に並べ、10cm厚さのモミガラで被覆し、寒冷紗、サンシルバーでトンネル状に覆った。また、伏込軟化栽培では、軟化床内が密閉状態となることから、茎葉が伸長すると倒伏するので、これを防止するため、換気扇により攪拌した。

(6) 軟化床電力量及び軟化温度; 3.3㎡当たり250Wの電熱線を設置、軟化温度(サーモ設定)20℃

(7) 試験規模; 株養成期1区10株1区制、軟化期1区5

### 株1区制

[株養成期]

播種概要; 播種期; 1996年3月19日

定植期; 6月20日

施肥量 (kg/a); 窒素成分で基肥2, 追肥2計4

栽植様式; 畝幅160cm, 株間30cm, 条間40cm, 4条植 (833株/a), 1株3本植え

(8) 供試品種の青ニラとしての生育特性

品種名	生育特性
グリーンベルト	休眠が非常に浅い。葉幅1.0cm以上。 低温・高温下で生育良好。周年栽培可能。
常緑大葉	同上
大連	休眠たいりょうより浅く、グリーンベルトより深い。葉幅1.3cm前後。ハカマ長い。
たいりょう	休眠深い。葉幅1.5cm。ハカマ長い。

### 3 試験結果及び考察

軟化仕向株の捨刈り時(1996年11月27日)の生育は、葉長では大差ないが、株当たり茎葉重は、植付け1本当たりの分けつ数が多いグリーンベルト、常緑大葉が勝り、大連、たいりょうの2~2.5倍であった。1本重もやや重い傾向であった(表1)。

表1 軟化仕向株の捨刈り時の生育(10株平均)

試験区 品種名	葉長* (cm)	茎数 (本/株)	分けつ数** (本)	茎葉重 (g)	1本重 (g)
グリーンベルト	54	47	15.7	320	6.8
常緑大葉	55	48	16.0	332	6.9
大連	55	28	9.3	150	5.4
たいりょう	55	24	8.0	133	5.7

注. \*: 葉長は最大葉長とした。

\*\* \*: 分けつ数=茎数÷株当たり植付本数(1株3本植え) 調査期; 1996年11月27日

黄ニラの刈取時の状況を見ると(表2)、同一軟化期間において、葉の伸長が最も早かったのは、大連であった。軟化日数は、伏込みから刈取1回目まで16日、さらに刈取

2 回目までは15日を要した (表 2)。

伏込み株を連続 2 回刈りした時の黄ニラの収量は、刈取 1 回目、2 回目ともに株当たり重量の大きい大連が勝った

(図 2)。大連は、刈取時の株当たり茎数がグリーンベルト、常緑大葉とほぼ同等であったことから、11月の捨刈り以降 3 月伏込みまでの間、分けつが続いているものと見られた。

表 2 連続刈取時期別黄ニラの収量 (5 株平均)

試験区 品種名	収穫 1 回目 (3 月 20 日)			収穫 2 回目 (4 月 4 日)			軟化期間 (日)	
	収穫長 (cm)	茎数 (株/本)	収量 (g/株)	収穫長 (cm)	茎数 (株/本)	収量 (g/株)	伏込み～ 刈取 1 回目	刈取 1 回目～ 刈取 2 回目
グリーンベルト	38	56	137	38	59	58	16	15
常緑大葉	36	51	95	35	48	39	〃	〃
大連	39	51	210	41	48	86	〃	〃
たいりょう	38	17	80	39	16	78	〃	〃

注. 葉長は最大葉長とした。

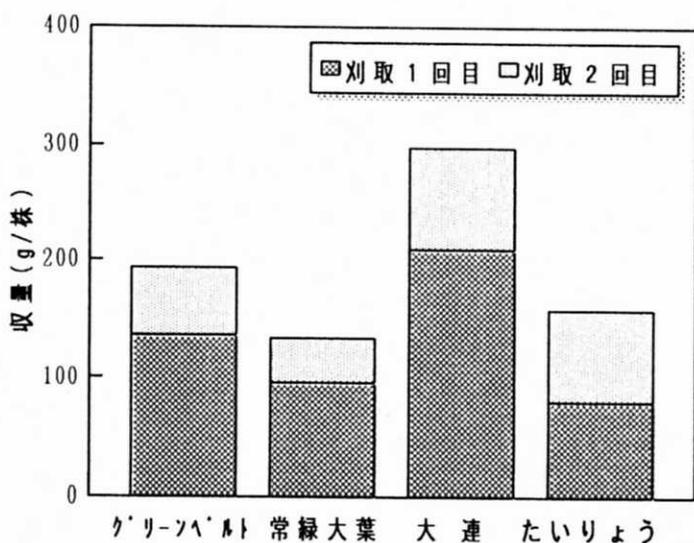


図 2 黄ニラの刈取時期別収量 (5 株平均)

連続 2 回刈り時の形態は、広幅系の大連がハカマが長く、葉も硬く立っており、最も優れた。大連同様広幅系のたいりょうは、他品種に比べ茎数が少なく、収量性はグリーンベルトと常緑大葉の中間で、ハカマは大連より長く、観察では、葉の黄色味がやや淡い傾向にあった。刈取 1 回目に対し 2 回目では、各品種ともに軟弱傾向で外葉の倒れが見られた (図 3)。

以上のことから、3 月伏込み軟化栽培では、連続 2 回刈り時の収量・形質から見て、大連が最も適する品種と判断された。

#### 4 ま と め

軟化栽培に必要な品種の条件は、葉幅が広く (5 mm 以上)、葉の厚みがあり、株の伸長が早く (生育旺盛)、休眠が浅く、黄色の濃いもの (今後の課題) 等である。

本試験の結果、3 月軟化栽培における、連続 2 回刈りに適する品種は、大連であった。

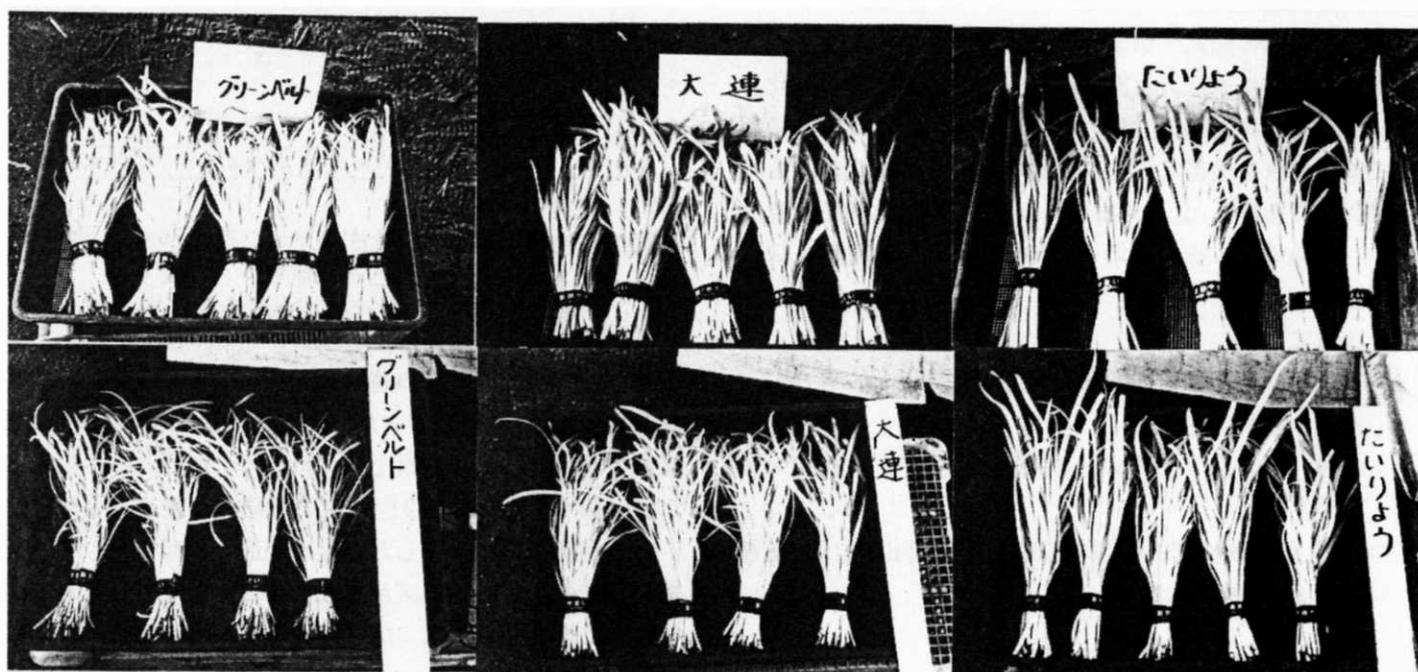


図 3 黄ニラの連続刈取時期別の形質 (写真上段; 刈取 1 回目, 下段; 刈取 2 回目)